

かがやき



主な内容

- かがやく町民のつどい
- 芳賀町女性団体連絡協議会総会
- 男女共同参画地域連携フォーラム
- 日本女性会議2002あおり
- 女性模擬議会
- かがやいています
- 小さいこえ、大きい声
- 団体紹介

二〇〇二年の明るい話題は、日韓で共催したサッカーワールドカップでの、日本チームの大活躍だった。

「ニッポン」コールで沸きあがったことは、全国民の気持ちが一瞬になった表れでもあった。

また、ノーベル賞で、始めて日本人二人が同時に受賞された。小柴、田中氏の晴れの舞台での挨拶で、「夢を追い、努力することが実を結ぶ」と話された。昨今夢を見ることなど忘れがちな日だが、肝に銘じたい言葉である。

私たちかがやく女性の会も、夢を追い、女性の視点で地域に根ざした活動を進めて行きたい。

団体紹介

芳賀町女性団体連絡協議会

現在、町内の女性組織九団体で活動しています。

〈会設立までの経過〉

平成六年度に芳賀町が県の補助事業、女性問題啓発事業を受け入れたのが始まりです。女性問題の課題解決のため、地域における女性に関する



る施策の充実、促進を図ることを目的とするもので、町の呼びかけで町内の女性団体・グループの代表者・各事務局が一堂に会し会議を行ない進められました。初年度は「女性のつどい」「女性団体・グループ活動状況調査」などを実施しました。その後、先進地研修などの活動もあわせて実施しているうちに、自主性をもった活動が出来るようにと一年間の設立準備委員会での検討のすえ、平成十一年十一月二十日設立総会で承認され今日の活動に至っています。

本年度実施した主な事業は、

- (1) かがやく町民のつどい開催
- (2) 研修会の実施
- (3) 町女性模擬議会に参加
- (4) 日本女性会議二〇〇二あおりに参加
- (5) 広報紙「かがやき」の発行などです。

会則の一部を記しますと、(事務局) 芳賀町教育委員会社会教育課に置く。

(構成) 連絡協議会は、この会の趣旨に賛同する芳賀町内の女性団体(以下グループを含む)で組織する。運営は、各女性団体長、グループ長および代表者二名があたる。

(目的) 連絡協議会は、芳賀町内に組織する女性団体の相互理解と協力により、教養を高めあいながら、明るい町づくりの推進団体として郷土の発展に寄与するものとする。

(総会) 総会は各団体三名の代議員によって構成し、次の事項を審議し決定する。

- (1) 事業計画及び予算に関すること
- (2) 事業報告及び決算報告に関すること
- (3) その他、総会が必要と認めた事項

(会費) 連絡協議会の会費は、

各女性団体年額二千元とする。などです。

協議会では入会希望の団体を募っています。加入して一緒に活動してみませんか。お待ちしております。



編集委員

黒崎イツ子	菅原	キン
黒崎 幸恵	綱川	知子
小林 恭子	矢口	マサ
小筆 公子	吉永	悦子
小堀 光子		

ご協力くださった方々に心からお礼申し上げます。(委員一同)

第二回 かがやく町民のつどい

平成十四年十月三十日(土)
芳賀町民会館ホール
映画「老親」鑑賞会

映画を観て

「高齢者と周囲の人が、ともに輝いて生きる」この映画はある家族とおして、これからの社会のあり方を考えるものであった。

主なストーリーは、長男の嫁が、姑の死後舅の世話をする。しかし、「介護で力尽きるまえに自分を生きたい」と夫と離婚、「家」や「嫁」から解放され自立を志す。

ところが、他人となつたはずの舅が転がりこんできた。何もできなかった舅は一家の「主夫」に大変身するが、その舅もこの世を去り、今度は寝たきりの実母を引きとるはめになつた内容である。

町民会館大ホールは観客で埋めつくされ、高齢社会に対する関心の高さが伺われた。



西水沼
稲川知法

「人生五〇年……」信長公が今川勢の前に唱えたときとされるものです。

現代に生を受けた私たちは、遠い過去に比べ、約二倍の人生を歩めるようになりました。それについて来たものは「老い」という自然法則ではないかと思えます。「老い」は若い年代から見れば、人生の終焉を意味するように見られがちですが、本当にそうなのでしょうか？



祖母井
福田タカ子

必要なことは、家族の絆を再認識することと、生まれながら持つ先輩後輩などのケジメを一度洗い流し、人間として平等に見聞き出来るような世の中に、変えて行かなければならないことだと思います。人が人を左右するのではなく、人の気持ちを理解出来るような社会を築いて行くことにより、「老人」が尊厳を持ち生き続けられる社会が築きあげられたら……と思いました。

避けることのできない老い。いつかは自分も人の手を借りなければ生きられない年齢を迎えることになるだろう。介護される側の心のあり方を考えたとき、やはり感謝の心を忘れない義父のよう

ありたい。映画の中で「舅や夫の世話や介護で生きるなんてまっぴらだ。自分を生きたい」との嫁の叫びがある。実際に老親の介護にあたっている人は、想像以上に悪戦苦闘の毎日で、口では言い表せない大変さがあることだろう。しかし、夫の立場に立つて考えると、女の自立＝離婚では、余りに唐突で納得がいかない。老後を夫婦が支え合って生きていくことも大切なのではないだろうか。

介護保険制度が実施されている現在、制度を上手に適度にとり入れて、介護する側にゆとりを持てるようにすることが大切かと思う。自分の生き方、老い方について、その人らしく輝いて生きるために、何が大切であるか考えさせられた。



平成十四年度
芳賀町女性団体連絡協議会総会
五月二十四日 町民会館研修室
総会終了後 映画鑑賞
映画「雲が晴れた日」



下高根沢
黒崎和子

この作品は、私たちの社会生活においていづどこにでもありうることを実にリアルにとらえた映画です。介護の問題・女性が仕事を続けるということ・障害者・同和地区住民の問題など中学二年生の主人公が、身近な問題として直面する。父方の祖父母は二人暮らしで、いちごを栽培している。仕事中、祖母が倒れ半身麻痺になり、その介護にあたり家族が眞剣に取り組む姿がよく描かれている。

父は母に退職し介護して欲しいと望むが、母は「私は同



東高橋
綱川久美子

和出身で、将来差別に負けない自立のために今の職業選んだ」と話す。主人公は交通事故で車椅子の生活になった級友から、親切だけでは気持は通じないこと学ぶ。祖父母は結果的には二人暮らしに戻る。両親の結婚に反対していた祖父は、眞剣に心配してくれた母に「昔は、わたしの目が雲つていたんだ。」と言う。その言葉に母は感動する。その後、家族が協力し介護することになる。いろいろなことを、考えさせられる内容の濃い映画でした。

映画「雲が晴れた日」は、同和地区出身者とその家族の労りと葛藤が描かれていた。同和問題とは、昔からの部落差別、身分差別だと言う。現

女性団体連絡協議会役員

役職	氏名	団体名
会長	黒崎幸恵	芳賀町ひばりの会
副	田川典子	芳賀町商工会女性部
副	小筆公子	芳賀町くらしの会
書記	鈴木正子	あじさいの会
〃	人見典子	芳賀町ひばりの会
〃	大塚由美	事務局
会計	綱川知子	芳賀町食生活改善推進員会
〃	綱川久美子	農村生活研究グループ
理事	田中ハマ子	芳賀町商工会女性部
〃	見目ミサ	芳賀町食生活改善推進員会
〃	高松圭子	〃
〃	磯エツ子	更正保護婦人会
〃	矢口マサ	〃
〃	黒崎和子	〃
〃	山本妙子	J A はが野芳賀地区女性会
〃	黒崎イツ子	〃
〃	斎藤芳子	芳賀町ひばりの会
〃	小堀光子	芳賀町商工会女性部
〃	小林恭子	農村生活研究グループ
〃	大根田富子	〃
〃	荒井マサミ	芳賀町くらしの会
〃	宇塚テル	あじさいの会
〃	吉永悦子	あじさいの会
〃	山本恵美子	日本赤十字奉仕団
〃	荒井三津子	〃
監事	菅原キン	〃
〃	山本カネ子	芳賀町くらしの会
〃	菅谷与志子	J A はが野芳賀地区女性会



芳賀地区男女共同参画地域連携フォーラム

「みんなの手で輪を広げよう参画社会」

平成十四年九月二十八日真岡市民会館小ホール

演題 「女性の権利、男のコケン二十一世紀はジェンダーフリーが合言葉」

講師 ゆみこ・ながい・むらせさん

事例発表

つばさの会茂木支部・にのみやみんなのつどい実行委員会

芳賀町女性団体連絡協議会

講演を聴いて



東水沼 河田裕子

思わず会場からどよめきが上がった一枚の写真、そこには重い洗濯機を背負い畦道を行く農家の女性の姿がありました。昭和三十年代、農作業と家事に追われる生活に、わずかなゆとりの時間を作りたいと、仲間と資金を出し合って共有の洗濯機を買い、数日交替で使うのです。そこには声高な主張はなくとも、人間らしい生活を一途に追い求める名もない女性たちの姿がありました。

女性を縛りつけてきた価値感や因習を断ち切るために、多くの人たちがこつこつと築いてきた道。それを守り、さらに広げていくためには、学校の教科書に載ることのない、さまざまな女性たちの歴史を学ばなくてはならないと教えられた一瞬でした。

日ごとに便利になる私たちの生活ですが、いまだに洗濯機ひとつ操作できない男性がいるという事実とそれを容認する社会。それをおかしいと思える意識を育てることが、今後の大切な課題だと強く感じた、意義深い講演でした。

芳賀町女性模擬議会開催

昨年に引き続き第二回女性模擬議会を開催するはこびとなり、各女性団体からの推薦者十名と芳賀中PTA・町内各保育園とのぶ幼稚園の家庭教育学級の代表者十名の計二十名が、八月二十九日町長さんより、芳賀町女性模擬議員委嘱書をいただきました。

● 模擬議員名 ●

阿久津美奈子	小井田久枝
齋藤 治子	人見 典子
大森 栄子	小林 幸代
関 年子	船生あや子
大谷津征子	小林 早苗
綱川 洋子	山本カネ子
岡崎美由紀	小堀 晴美
豊田美恵子	山本 妙子
河田 裕子	小山 佳子
中村かおる	野沢 静子



社会教育課にお世話になりながら芳賀中生模擬議会や町議会の傍聴をはじめ、いろいろな学習会を重ねつつ私たちも独自に勉強や調査などをして、各々日を追うごとに模擬議員としての自覚も大きくなってまいりました。

男女共同参画社会づくりが言われて久しくなりますが、この模擬議員としての貴重な体験が、女性がこれから積極的に各分野に参画できる一助になればと願っています。

(模擬議会議長 野沢静子)

十月四・五日、青森市にて、

テーマを「私は私を大切に思うのと同じ重さであなたを大切に思う」として開催され、本町から四名参加しました。

日本女性会議2002あおもり

一日目は、10の分科会と3のワークショップ。交流会は、杉木立の生い茂ったねぶたの里で、食べて、語り合って、ねぶた音頭の流し踊り、ラッセラーの掛け声で曳手・跳人を体験し、心ゆくまで楽しみ、青森の魅力と人情味を満喫。二日目は、歓迎セレモニー、全体会「より豊かな生き方を求めて」では、暴力や差別のない、誰もが幸せに生きる社会にするには、一人ひとりが主役として輝き、競争中心の男性社会から、共生の社会、新しい価値観の創造のために自らの力をつけ



吉永タイ子記

行動することが大切。記念講演「ジェンダーからの解放、社会システムの再構築を」大沢真理東大社会科学研究所教授は、男女共同参画は、日本社会の変革の「鍵」。性別に縛られず個性と能力を伸ばし、男女が仕事と子育てや地域での活動を両立できるよう、社会的に支援していくことが男女共同参画社会の理念である。地域の特性に応じた施策を、と強調。この女性会議に携わる方々の熱い思いと、参加者の熱気にふれることができ感激しました。

一般質問事項

- 一 子育てと廃校利用支援について
- 一 図書館の現状と新設図書館の展開について
- 一 学童保育とスクールバスについて
- 一 障害者と健常者のふれあいの機会を町村合併について
- 一 不登校児の対応と学校の情報公開について
- 一 高齢者が健康で心豊かな生活を送れる施設の充実について
- 一 子どもの健康を守る学校給食と食教育について
- 一 保育園について
- 一 「環の町芳賀」の取り組みについて

始めての経験

下高根沢 大森栄子

「二番 大森栄子議員の発言を許可します。」挙手をして「議長 二番大森栄子」と答え町旗に一礼し演壇に立ちました。このような経験は生まれて始めてなので、頭の天辺から足のつま先まで緊張感のはしり、一般質問を終え席に戻るまで無我夢中でした。改めて、本職議員のみなさん

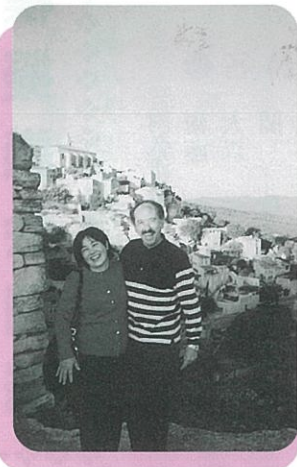
のご苦労・発言したことへの責任の重大さを痛感いたしました。私も若いころ、体験発表や意見交換などで、壇上に立つことは何度もありましたが、今回は幾分にも勝手が違うので戸惑いました。若い議員は「育ちゆく子供たちの未来」を考え、中高年議員は「社会福祉や市町村合併問題」などをそれぞれの立場から町当局に訴えました。執行部より「学校廃校利用計画・図書館建設・学童保育・市町村合併」などにつき懇切丁寧に答弁していただき、私なりに理解できたと思っています。今後とも多くの町民が町政に関心を持ち、男女共同参画社会実現のために努力すること必要だと痛感しました。私自身この貴重な体験を最大限に生かし、皆さんのために何か貢献出来ればと願っております。

かがやいています

栃木県女性の海外研修に参加

見て、聞いて、
そして感動

東高橋 綱川みね子
見るもの、聞くものすべてが驚きと感動の連続でした。最初の訪問国ベルギーのブリュッセルは歴史のある都市で坂道も段差も数多くあります。バリアフリーにするには、歴史を壊し莫大な費用と年月を費やさなければなりません。現実問題として非常に難しいことです。こうした歴史のある所で、障害者の人と健常者の人がごく自然に助け合いながら生活していたのが印象的でした。
南フランスでのホームステイは生まれて初めての経験で



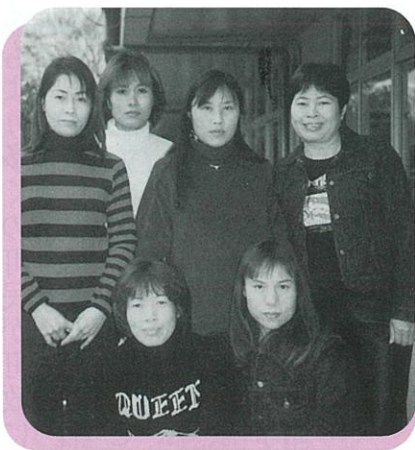
した。ホストのマルケズ氏は一人暮らしですが、細かい所まで気遣い、心のお腹も満たしてくれました。プロヴァンスの紺碧の空と風を思い出すたび胸が熱くなってきました。
ノルウェーで訪問した高齢者センターは、比較的元気なお年寄が憩いの場として通っている所です。施設の運営は多くのボランティアの力に頼っています。「できることは自分たちの力で、余ったお金は他の所の運営費に回す」という姿に日本との意識の違い

を感じました。
この研修に参加したことで何が自分の中で変わったのか実感できませんが、いつの日か、この研修が私に大きな力をもたらしてくれたのだと実感する時が来ると信じています。

日本が大好きな仲間たち さくら会

小林 千里（給部） 会長
阿久津アキ（ハッ木） 副会長
石川ヨウ子（西水沼）
越口ジュン子（西水沼）
綱川 ユリ（ハッ木）
若狭 クミ（ハッ木）

私たちはタイから日本に来ました。そして日本人と結婚して芳賀町で暮らしています。最初に一番苦労したのは言葉でした。平成十二年に公民館職員の勧めにより、同じ仲間同士の交流が始まりました。会の名前も自分たちで考



えて、日本の代表的花「さくら」に決めました。

日本語の勉強会・料理教室・研修旅行・子供会行事などにみんなで積極的に参加し、知識を深めるよう努力しています。おせち料理・しもつかれ・赤飯・漬物なども作れるようになりました。

タイに比べ日本は生活が豊かでとても住みやすいです。家族や地域の人も親切にしてくれとても感謝しています。これからも大好きな日本で頑張りたいと思います。みなさん応援してください。よろしくお願いします。



東水沼
佐藤 芳武

皆さんに感謝しています

友遊直売所で働くようになって、早くも二年が経とうとしています。その間、生産者の方々との交流の場が与えられ、農業についてとても勉強になりましたし、なにより楽しかったです。

皆さん気さくで、僕が分からないことがあればいろいろ丁寧に教えてください、暑くても寒くても野菜を運んで来る積極的で真面目な姿に感動を覚えます。ほんとうにお疲れさまです。これ

子育て応援します

自分の子育て経験から、さまざまな場面でサポート役の必要を感じ、子育てを応援するグループを作りました。現在芳賀町民会館で開かれている講座の託児のお手伝いなどを行っています。

子育て奮闘中のお母さん！頑張っている自分にほんの少し御褒美をあげましょうよ。子供は元気なママが大好き。息抜きのために、どうぞお気軽にお預けください。そして、ゆったりと子育てを楽しみましょう。



上根
谷藤久仁子

地場産野菜の学校給食



農事組合法人ドンカメ
稲毛田
小久保行雄

輸入野菜の残留農薬、未登録農薬使用事件。今、食の安全性が広く社会に問われている。芳賀町の小学生や中学生が毎日食べる給食に、地元野菜がどの位使われているのか。多分一割にも満たないだろう。どこで誰が栽培したのか解からない物を食べているのだ。それでは新鮮さや安全性が確保できるはずがないのである。安心して食するには、顔の見える関係すなわち信頼関係が大切なのであり、地場産の野菜がそれを満たすのである。子供の健やかな成長と健康を願うのは当たり前のこと。地域の宝である子供たちは、地産地消の学校給食で、元気に育つてほしいものである。

がんばっています



社会教育指導員
大塚 由美

昨年の七月から女性団体連絡協議会の事務局を担当しています。

八年前に芳賀町に引越して来た時は、知人もいなくて寂しい思いをしました。娘の成長とともに友人も増え、今は楽しい毎日です。この町は豊かな自然環境に恵まれていて、地域のみなさんがとても親切です。中学生までの医療費無料化など福祉面での充実も魅力です。とても住みやすい町だと思ひ満足しています。

今年はより多くの方に女団連の活動をご理解いただけるよう頑張ります。ご協力をよろしく願ひいたします。